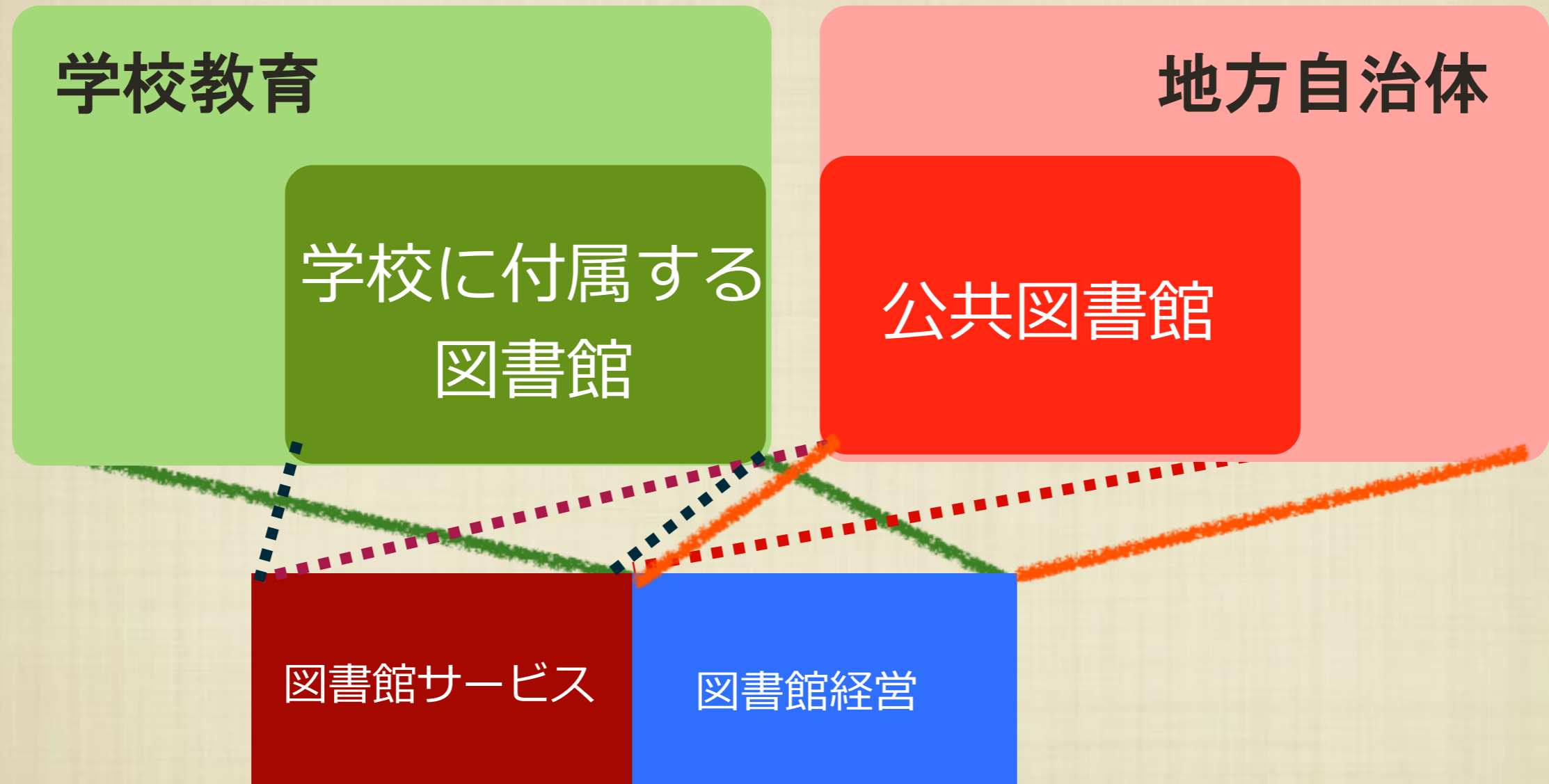


大学図書館のアドボカシー  
：存在意義を伝え、  
共感を得るためには

アドボカシー

大阪大谷大学 杉山誠司

# 大学図書館の経営



# 大学図書館のステークホルダー

教員 理事者・経営 経営層

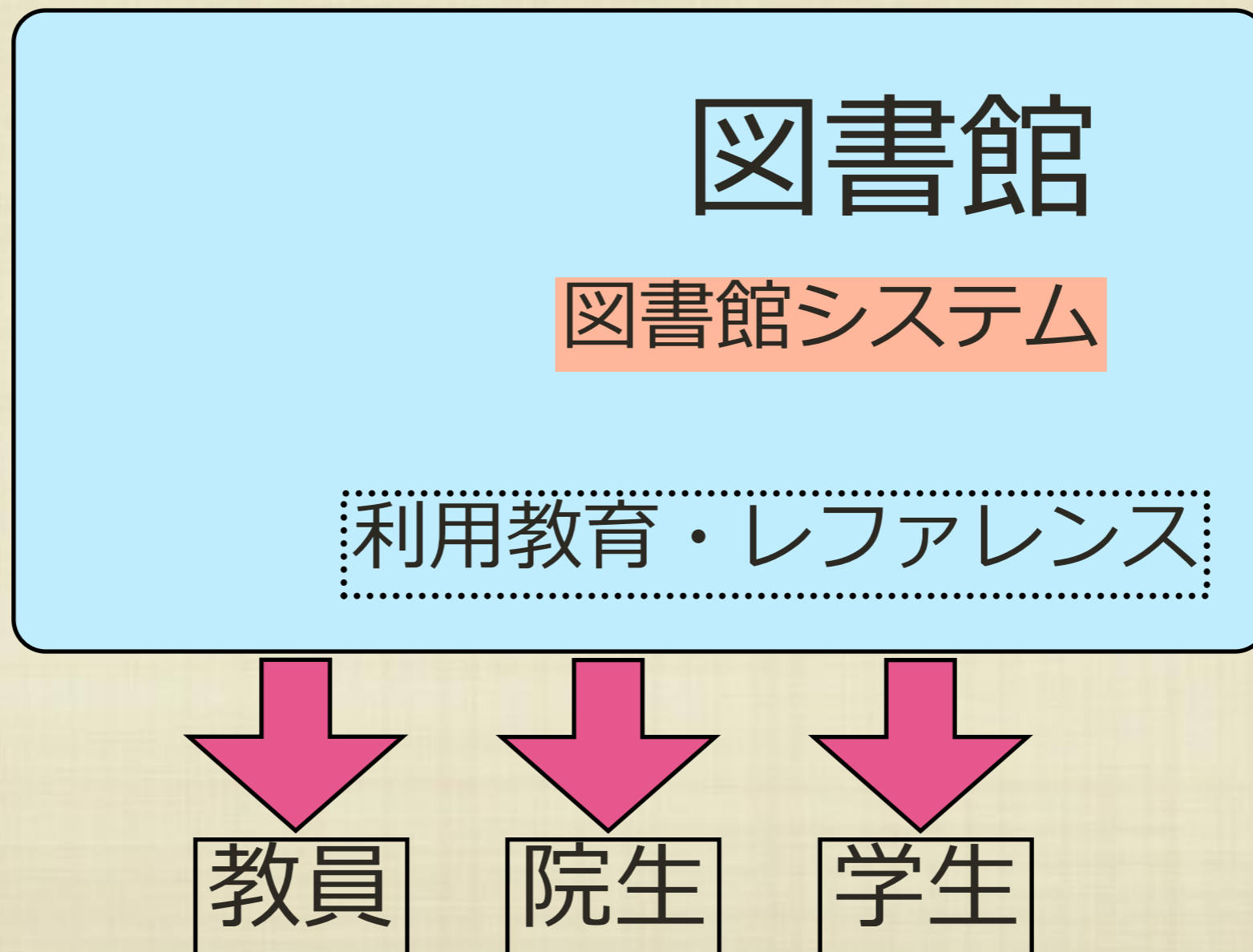
図書館

教員

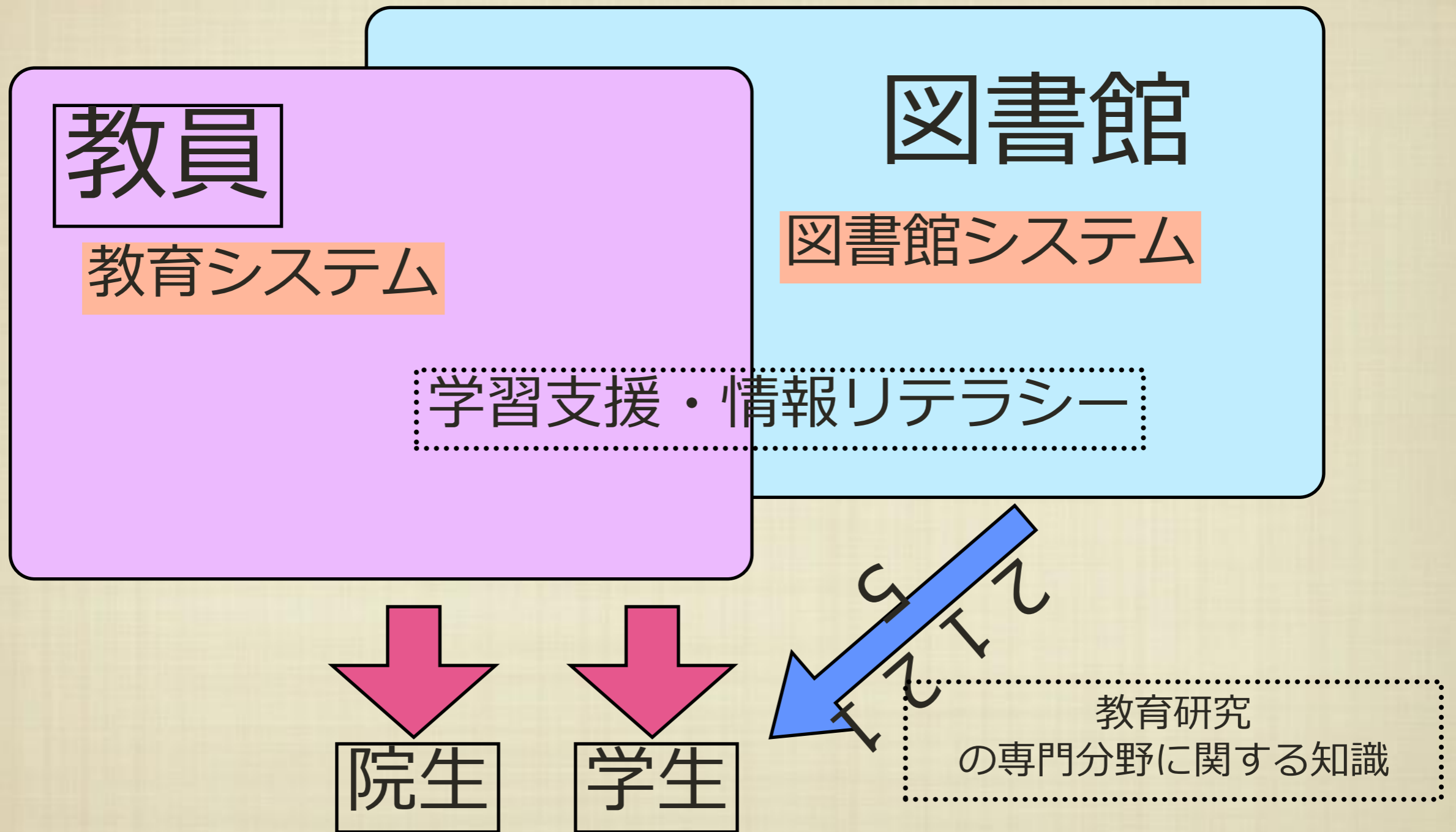
院生

学生

# 利用教育モデル



# 学習支援モデル



# 学術審議会

- 学術審議会答申では、学術環境整備として大学図書館への言及が増えている。

# ■ 大学図書館の整備及び学術情報流通の在り方について 審議のまとめ (平成21年7月)

- : 電子ジャーナルの効率的な整備及び学術情報発信・流通の推進
- 1. 電子ジャーナルの効率的な整備
- 2. 学術情報発信・流通の推進
  - (1) オープンアクセス
  - (2) 機関リポジトリ
  - (3) 学協会の情報発信

# 情報基盤センターの在り方及び学術情報ネットワークの今後の整備の在り方（平成21年7月）

- 1 我が国の学術研究を支える学術情報基盤の今後の整備について
- 2 情報基盤センターの在り方について
- 3 学術情報ネットワークの今後の整備の在り方について



# 学術審議会答申

- とりわけ平成22年12月にまとめられた「大学図書館の整備について：変革する大学にあって求められる大学図書館像」には、大学図書館の学習支援、教育支援、研究支援への言及がある。

# 大学図書館の整備について

- 1. 大学図書館の機能・役割及び基本的機能
- 2. 大学図書館職員の育成・確保

- 1. 大学図書館の機能
  - 学習支援・教育活動への直接の関与
- <学習支援>
- ラーニングコモンズ……図書館職員等が、それらを使った自習自習を支援すること重要である。
- このような「場」学生がレポートや論文の書き方を実践的に学んだり、ライティングセンターの講義や演習を実施……

- 1. 大学図書館の機能
  - 学習支援・教育活動への直接の関与
- <教育活動への直接の関与>
- 大学では.... 情報を探索し, 分析・評価し, 発信するスキルを高める情報リテラシー教育が必要
- 必要に応じて, メディアリテラシーも, 大学図書館において取り組みを検討

## ■ 2. 大学図書館職員の育成・確保 ー 新しい業務

### ■ <学習, 教育, 研究支援を担う専門家>

- ①カリキュラムと直結した資料整備
- ②情報リテラシー教育への直接的関与
- ③研究に直結するレファレンス
- ④大学の研究成果の集積と発信
- ⑤学問的交流の場を大学図書館として提供するラーニングコモンズの運営

# ■ 大学図書館職員に求められる資質・能力

## ■ <学習支援における専門性>

■ 大学図書館が教育研究支援に積極的に関わっていくためには、大学図書館職員には.....教育研究の専門分野、サブジェクトに関する専門知識が求められる

■ 大学図書館職員の中で、教育や研究と密接に関わる業務を行う者は、従来の事務職員とは区別して一途を検討していく必要がある

# ■ 大学図書館職員に求められる資質・能力

## ■ <教育への関与における専門性>

- 現在，大学では初年次教育の重要性が言われている
- 大学図書館職員が情報リテラシー教育に直接関わる
- 情報リテラシー教育だけでなく，大学図書館職員が教員と学生のコミュニケーションを図りながら教育課程の企画・実施に関わること

# ■ 大学図書館職員のキャリアパス

- 従来通り事務系職員としてのカテゴリで、待遇を考え、人事を行っていく限りは、大学図書館に要求される機能を担う人材を育て、活用していくことは難しい
- 大学図書館職員については、事務系職員とは異なった枠組みを考える必要がある



# 中央教育審議会

- その他，現在進んでいる大学（大学院）教育改革への答申には，着目しておきたい。

# 学士課程教育の構築に向けて（平成20年12月）

- 共通教育や基礎教育の重要性について教員間共通理解を確立し、教育活動への積極的な参画を促す
- 共通教育や基礎教育の目的達成を特定の科目に任せない。例えば、アカデミック・ライティングについては、基礎教育科目だけではなく、専門科目の学習を通じた実践的な訓練を行うことが望ましい。
- （第2節教育課程編成・実施の方針について 1. 教育課程の体系化（3）具体的な方針）

# 学士課程教育の構築に向けて（平成20年12月）

- 我が国の大学では、初年次教育として
  - 「レポート・論文などの文章技法」
  - 「コンピュータを用いた情報処理や通信の基礎技術」
  - 「プレゼンテーションやディスカッションなどの口頭発表の技術」
  - 「学問や大学教育全般の動機付け」
  - 「論理的思考や問題発見・解決能力の向上」
  - 「図書館の利用・文献検索の方法」等が重視されている。
- （第2節教育課程編成・実施の方針について 2. 初年次における教育上の配慮（1）現状と課題）

# <番外> 問いをつくるスパイラル

- 大学図書館ではないが、日本図書館協会・利用者教育部会で取り組んでいる「問いをつくるスパイラル」の教育支援は、着目しておきたい。

『問いをつくるスパイラルー考えることから探究学習をはじめよう!』日本図書館協会利用教育委員会  
図書館利用教育ハンドブック学校図書館（高等学校）版作業部会（日本図書館協会, 2011, 123p）